

親音種和刻墨合

附錄
四

ハ 5 群

2676

4



門八海
號 1806
卷 4-4

ハ 6
2676
4



觀音經

妙法蓮華經觀世音菩薩普門品

第二十五

爾時無盡意菩薩即從座起偏袒

右肩合掌向佛而作是言世尊觀

世音菩薩以何因緣名觀世音佛

告無盡意菩薩善男子若右無量

觀音經

百千萬億衆生受諸苦惱聞是觀
世音菩薩一心稱名觀世音菩薩
即時觀其音聲皆得解脫
若有持是觀世音菩薩名者設入
大火火不能燒由是菩薩威神力
故若爲大水所漂稱其名號即得
淺處若有百千萬億衆生爲求金

銀琉璃車乘馬瑙珊瑚琥珀真珠
等寶入於大海假使黑風吹其船
舫飄墮羅刹鬼國其中若有乃至
一人稱觀世音菩薩名者是諸人
等皆得解脫羅刹之難以是因緣
名觀世音○若復有人臨當被害
稱觀世音菩薩名者彼所執刀杖

尋段段壞而得解脫。若三千大千
國土滿中夜。又羅刹欲來惱人。聞
其稱觀世音菩薩名者。是諸惡鬼
尚不能以惡眼視之。况復加害
設復有人。若有罪。若無罪。桎械枷
鎖。檢繫其身。稱觀世音菩薩名者。
皆悉斷壞。即得解脫。若三千大千

國土滿中。怨賊有一商主。將諸商
人。齎持重寶。經過險路。其中一人
作是唱言。諸善男子。勿得恐怖。汝
等應當一心稱觀世音菩薩名號。
是菩薩能以無畏施於衆生。汝等
若稱名者。於此怨賊。當得解脫。衆
商人聞。俱發聲言。南無觀世音菩

薩稱其名故即得解脫無盡意觀
世音菩薩摩訶薩威神之力巍巍
如是○若有衆生多於媯欲常念
恭敬觀世音菩薩便得離欲若多
瞋恚常念恭敬觀世音菩薩便得
離瞋若多愚癡常念恭敬觀世音
菩薩便得離癡無盡意觀世音菩

薩有如是等大威神力多所饒益
是故衆生常應心念○若有女人
設欲求男禮拜供養觀世音菩薩
便生福德智慧之男設欲求女便生
端正有相之女宿殖德本衆人愛
敬無盡意觀世音菩薩有如是力
若有衆生恭敬禮拜觀世音菩薩

福不唐捐。是故衆生皆應受持觀
世音菩薩名號。無盡意。若有人受
持六十二億恒河沙菩薩名字。復
盡形供養飲食衣服臥具醫藥於
汝意云何。是善男子善女人功德
多不無盡。意言甚多。世尊。佛言。若
復有人受持觀世音菩薩名號。乃

至一時禮拜供養。是二人福正等
無異。於百千萬億劫不可窮盡。無
盡意受持觀世音菩薩名號。得如
是無量無邊福德之利。○無盡意
菩薩白佛言。世尊。觀世音菩薩云
何遊此娑婆世界。云何而爲衆生
說法。方便之力其事云何。佛告無

盡意菩薩善男子若有國土衆生
 應以佛身得度者觀世音菩薩即
 現佛身而爲說法應以辟支佛身
 得度者即現辟支佛身而爲說法
 應以聲聞身得度者即現聲聞身
 而爲說法應以梵王身得度者即
 現梵王身而爲說法應以帝釋身

得度者即現帝釋身而爲說法應
 以自在天身得度者即現自在天
 身而爲說法應以大自在天身得
 度者即現大自在天身而爲說法應
 以天大將軍身得度者即現天大將
 軍身而爲說法應以毗沙門身得
 度者即現毗沙門身而爲說法應

以い小せう王わう身しん得とく度ど者者。即即現げん小せう王わう身しん而み
爲み說せう法ふ應やう以い長ちやう者者身しん得とく度ど者者。即即現げん
長ちやう者者身しん而み爲み說せう法ふ應やう以い居こ士と身しん得とく
度ど者者。即即現げん居こ士と身しん而み爲み說せう法ふ應やう以い
宰さい官くわん身しん得とく度ど者者。即即現げん宰さい官くわん身しん而み爲み
說せう法ふ應やう以い婆わ羅ら門もん身しん得とく度ど者者。即即現げん
婆わ羅ら門もん身しん而み爲み說せう法ふ應やう以い比ひ丘く比ひ

丘く尼に優う婆わ塞そく優う婆わ夷い身しん得とく度ど者者。即即
現げん比ひ丘く比ひ丘く尼に優う婆わ塞そく優う婆わ夷い身しん
而み爲み說せう法ふ應やう以い長ちやう者者居こ士と宰さい官くわん婆わ
羅ら門もん婦ふ女にょ身しん得とく度ど者者。即即現げん婦ふ女にょ身しん
而み爲み說せう法ふ應やう以い童どう男なん童どう女にょ身しん得とく度ど
者者。即即現げん童どう男なん童どう女にょ身しん而み爲み說せう法ふ應やう
以い天てん龍りゆう夜や又又乾けん闍がう婆わ阿あ脩しゆ羅ら迦か樓る

觀音經

羅緊那羅摩睺羅伽人非人等身
得度者即皆現之而為說法應以
執金剛神得度者即現執金剛神
而為說法無盡意觀世音菩薩成
就如功德以種種形遊諸國土
度脫衆生是故汝等應當一心供
養觀世音菩薩是觀世音菩薩摩

訶薩於怖畏急難之中能施無畏
是故此娑婆世界皆號之為施無
畏者無盡意菩薩白佛言世尊我
今當供養觀世音菩薩即解頸衆
寶珠瓔珞價直百千兩金而以與
之作是言仁者受此法施珍寶瓔
珞時觀世音菩薩不肯受之無盡

意復白觀世音菩薩言。仁者。愍我等故。受此瓔珞。爾時佛告觀世音菩薩。當愍此無盡意菩薩。及四衆天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等。故受是瓔珞。即時觀世音菩薩愍諸四衆。及於天龍人非人等。受其瓔珞。

分作二分。一分奉釋迦牟尼佛。一分奉多寶佛塔。無盡意觀世音菩薩。有如是自在神力。遊於娑婆世界。爾時無盡意菩薩以偈問曰。世尊妙相具。我今重問彼佛子。何因緣。名為觀世音。具足妙相尊。偈答無盡意。汝聽觀音行。善應諸方所。弘誓深如海。

| | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 如日虛空任 | 或在須彌峯 | 龍魚諸鬼難 | 念彼觀音力 | 能滅諸有苦 | 我為汝略說 | 歷劫不思議 |
| 或被惡人逐 | 為人所推墮 | 念彼觀音力 | 火坑變成池 | 假使興害意 | 聞名及見身 | 持多千億佛 |
| 隨落金剛山 | 念彼觀音力 | 波浪不能沒 | 或漂流巨海 | 推落大火坑 | 心念不空過 | 發大清淨願 |

| | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 或遇惡羅刹 | 念彼觀音力 | 或遭王難苦 | 念彼觀音力 | 刀尋段段壞 | 念彼觀音力 | 念彼觀音力 |
| 毒龍諸鬼等 | 念彼觀音力 | 臨刑欲壽終 | 念彼觀音力 | 或囚禁枷鎖 | 釋然得解脫 | 所欲害身者 |
| 念彼觀音力 | 還著於本人 | 念彼觀音力 | 咸即起慈心 | 手足被拘械 | 咒咀諸毒藥 | 或值怨賊遠 |

時悉不敢害 若惡獸圍繞 利牙爪可怖

念彼觀音力 疾走無邊方 旣蛇及蝮蝎

氣毒烟火燃 念彼觀音力 尋聲自迴去

雲雷鼓掣電 降雹澍大雨 念彼觀音力

應時得消散 衆生被困厄 無量苦逼身

觀音妙智力 能救世間苦 具足神通力

廣修智方便 十方諸國土 無刹不現身

種種諸惡趣 地獄鬼畜生 生老病死苦

以漸悉令滅 眞觀清淨觀 廣大智惠觀

悲觀及慈觀 常願常瞻仰 無垢清淨光

惠日破諸暗 能伏災風火 普明照世間

悲體戒雷震 慈意妙大雲 澍甘露法雨

滅除煩惱燄 諍訟經官處 怖畏軍陣中

念彼觀音力 衆怨悉退散 妙音觀世音

梵音海潮音 勝彼世間音 是故須常念
念念勿生疑 觀世音淨聖 於苦惱死厄
能爲作依怙 具一切功德 慈眼視衆生
福聚海無量 是故應頂禮 ○爾時持地
菩薩即從座起 前白佛言 世尊若
有衆生聞是觀世音菩薩品 自在
之業 普門示現神通力者 當知是

人功德不少 佛說是普門品時 衆
中八萬四千衆生 皆發無等等阿
耨多羅三藐三菩提心 觀音經終

十句觀音經

觀世音 ○南無佛 ○與佛有因 ○與佛有緣
佛法僧緣 ○常樂我淨 ○朝念觀世音 ○
暮念觀世音 ○念念從心起 ○念念不離心

納扎 ○菅笠 ○笈摺等書法

表 奉納西國三十三所国所名

裏 南無大慈大悲觀世音菩薩



| | |
|-------------|------|
| 年号 月日 | 同行何人 |
| 飛吼奉順禮西國三十三所 | |
| 國所 | 名 |

順禮道中 第一番紀伊國 那智山



吉巖渡寺 本寺如意輪観音 出長八寸金像高山の 滝より裸行上人

一むん紀伊那智山
ふづくやきうつあま
みくはのなればあふ
ひくたきんせ

補陀洛山南方世界観音井の浄土なり。紀伊那智山
も日本の補陀洛山なりとのふ。おふ第一番のつな
滝津のまの依南方世界のふ。山の岸をうつな
まのひくたきんせ。おふ第一番のつな。おふ第一番のつな
まの浄土のふ。思つ。おふ第一番のつな。おふ第一番のつな

観世音永攷

形智より紀えぬ寺の
る二筋ありえ道地通

○大迎地通田邊寺
形智より

- 一リ 後のみ
- 一リ 下だろ
- 一リ こそ
- 一リ くら
- 一リ ね田
- まり ねの
- 二リ ね
- 四リ こそ
- 三リ ね
- 三リ ね
- 一リ ね
- 二リ ね

二もん同紀と井寺

あるさそ我をめぐらに

さそぬでうはたのみやも

ちうくあそん

この表ハ吉成出く通此所ハ本より紀と井寺より
うけてよしけ所チを事れをたの初も通うかてあつたり
又表のちうハ龍をたれんまの身も佛縁ありてちうハ西を吹れ
出け紀と井寺すて事れを初世まの寺利益をて極浄土の
たの初と通は身とちうか

三もん同移川寺

ちうくあそん

ころんでう布とけのちう

たのくあそん

此の表ハ又母のまむ子とて移川寺ふりけとあり。親世まハ
一切流生と我子のチハ小惠とあり。現世まハ一徳とあり
のひま世まハ極浄土とあり。観音経ハ由能為依依姑
とあり。依依又母とあり。これを又母の子とあり。我とあり
助けたまは親音井の寺。極浄土のちう

○中迎地通妙法寺
形智のなまのふより山
のちうとをよ板とら板の
とら付より共三丁妙法寺
うけぬけ二十丁
形智より

- 四リ 小口
- 三リ くら川
- 半リ ね
- まり ね
- 二リ ね
- 三十三丁 ね
- 二リ半 ね
- まり ね
- 二リ ね
- 二リ ね

一リ 八けんや
一リ ちりちり
一リ いまご
二リ ころろ

三番河國
新川寺



左より千手観音
別記を男身所作
新川寺より橋の尾より
言ひおくれを十三リを

おごん大和壺坂寺
いふ成そりついで
つがさうれふり乃のいふ
お中うどあうん

いかに水を湛てと壺坂の景色とありて
物かたはあは法て壺坂のとうけふありて
あうんとは法をありて壺坂の八功德池ありて
壺の砂も極浄の金銀の砂ありて
むと現世の極浄とありて

新川よりまき
一リ ぶで
二リ びに
一リ ひり村
まり 大くが
字今 まきのを

四番和泉國
新川寺
施福寺



本寺の法親がさうさう
女林井の記まき

七だん回お寺
けさうれむつめあうちの
いふ乃けさうあうちの
ひるまなりなり

今新川とありて寺中の景色とありて
むとのけをけりて壺坂とありて
壺の砂も極浄とありて
壺の砂も極浄とありて
壺の砂も極浄とありて

弘法大師御作の山内海

羨井古七リ積の尾

二リリ あまの

二リ半余 とんぼ

二リリ あまの

五番河内國

藤井寺

浮妻耶山



牛字の千の親善

八道人同和瀬寺

いづこびも中なるらん

いづこびも中なるらん

ふるたなふ川

福瀬寺の殊小風系勝也親世音の市利番も係たれぬ哉
系りても初て系活せし地をのりむを初瀬寺ふけてよ
しなり。山も松も係た谷川と八親善の市利番も係たれぬ哉
川よりも係し普門の市利番も係た深如海とありそれを初瀬の
山の系た谷川の係たふたふたしてよき一瀬なり

九道人系は南宮堂

もふれ日かかぬらん

かやきてみらるらん

けろくささるらん

六番田大和國

壺坂寺

南法花寺



取寄の天皇御建立河
保親の再建

十八丁 こんが

日 ちち

五十丁 上のを子

一リ半 たくま

一リ半 ちんちん

一リ半 とこ

上ト一リ つがさ

夜の子夜はま月との念てまの月かあなをたれまの月の夜
ふむ田まふかやふけいふけいふけいふけいふけいふけい
ころろ八親善も井の功徳を春の月れき輝くふかふか
南宮まふかやふけいふけいふけいふけいふけいふけい
りふけいふけいふけいふけいふけいふけいふけいふけい



字の十二面観音
乃若上人堂の内に
ありぬるなり

岡き二りつがねより
まり おうき
一りま おうき

七番大和國
岡寺

東光山号



十とん字津守戸

もひがうつさかんむろと

くけあけをうむらけうのそふ

くひのまきりた

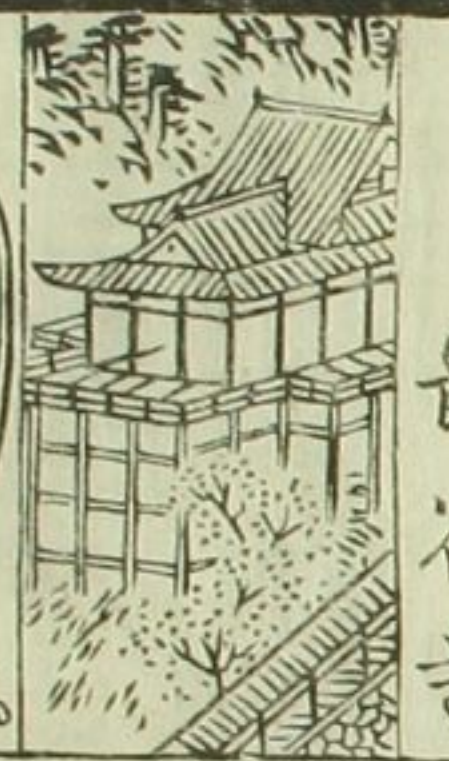
歌の夜を月を御まきりてよ
こけひてんまを御まきりてよ
とね連ふのふかり裏のそら
と修りもれも稍もれを
てむかひてん親世音とよ



幸す如意輪観音
弘法大師三昧のま
とつて作らるる
毎山義御信

長谷三半岡より
ニリ まかた
一リ そせ

八番大和國
長谷寺



十とん字城上の醜醜

ごやんぬもろとせきとふ

ごんたねごあもんれごうひ

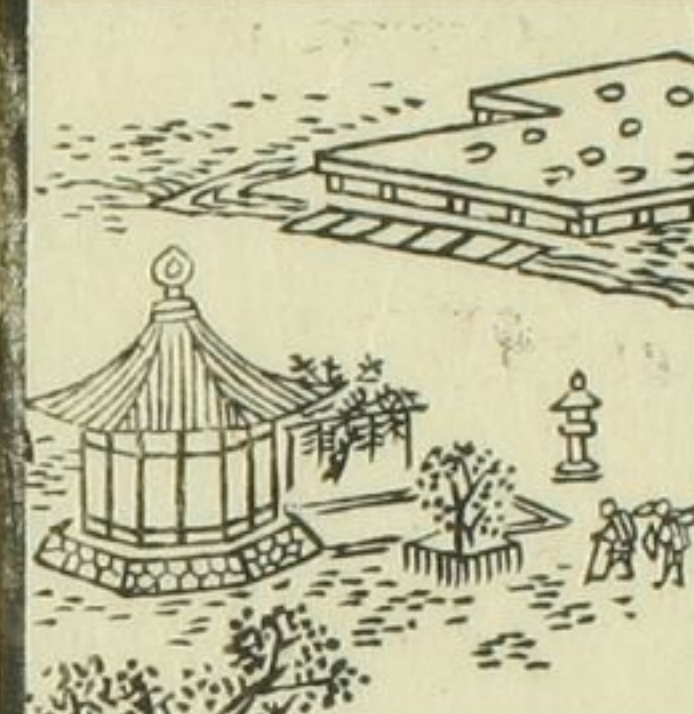
たのもきうふ

洋縁の此まの
このまの
をすて海
此世の悪
いふのあ

本寺十一面観音
歩丈三丈八尺三寸
扉山修屋上人

奈良七リをせよ
ニリリリ
リリリ
リリリ
リリリ

九采田奈良内福寺
南圓堂



十二面観音の岩園寺

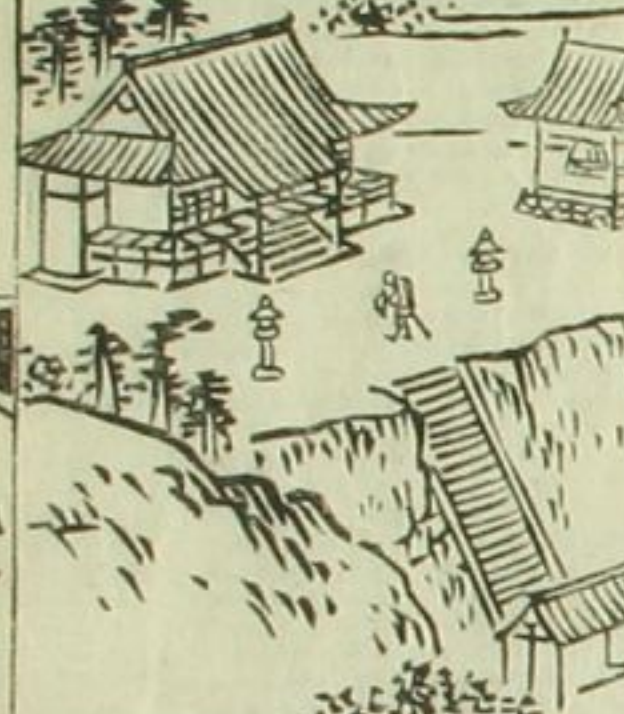
みふらういひくたろらん
いこまでうまうらうあ
まのせのあ

あ上行のあえん同音寺のいこまを岩園寺に
さて岩園寺の流もあが岩の岸で岩波のまうとま
松風のまであつこのあへ裏のまのあかまのま
名おて世の中の音とあかまのまのまのまのま
あ波のまもあまの松風のまもあまのまのまのま



本寺三月八日
名原冬嗣の建
一リ半 ききづ
二リ半 むらづ
一リ半 ゑりけ
一リ半 むんげん
一リ半 りぢ

十番山城守
三室戸寺



十三面観音の寺

のらろよ成ねがまのうら
かろくとと不とけれら
おのれいあ

西小歌礼て後の世成助けの祈りま信をを流く
の観世音乃大慈大悲の所誓言のあかまのま
縁を縁とふ小助んの由誓言のあかまのまのま
後の世を助けのあかまのまのまのまのまのま
か能救世間苦とあまの由誓言のまのまのまのま



本寺同法檀金千石
観音三尊一尺三寸
并基 隆明阿闍梨

上のぶいご三三三
一リ 六ぢぢぢ
一リ 下のぶいご
一リ 上のぶいご

土番山城國
上の醍醐寺



十白くん同三井寺

どでいさやなほの月を
んあでこれのひびきた
あゝゝゝ

出入り月の東より西へも波間の月を眺め入るるを
人の心も月の中に入るといふなりて水の清く濁くをよほし
あゝゝゝ



本寺準照親王三
月八尊市も五人
并基 誠の泰澄

少石向寺七十丁
二十二丁 西宮五井村
二十丁 三つうり村
八丁 いらまが

十二番近江國
山石間寺



十白くん系今熊野

むりよりた月もあゝぬ
いまがはのあけのちうゑ
あゝゝゝ

昔より今もあゝぬといひて今熊野とけねふとの
観音の御持六久遠劫とて遠れ昔より今もあゝぬ
ともあゝぬ今もあゝぬといふなりて水の清く濁くをよほし
あゝゝゝ

本寺の如來親王
并基 越の泰澄

石山五十丁岩間
二丁のガリ
二十五丁チキ
二十丁

十三番 近江國
石山寺



十六日 人回清あり

まのさやあふのさぬ

まよづつらむさぶあろき

すじうろん

松風のまとうけ 音羽の滝のあふ清りとらふ清ありまをけ
よーなりむすぶをますじうろんと滝のあふ清ありまをけ
まがぞも涼あふあらさなる裡のまろく親ま井の法の
智あ成ふむまを食眩癡の二毒の端も消く此心も
あ清くあふあふとかりむまがふあまをすまをかり

本寺の如來親王
并基 良弁僧正

三井さ、ニリ石山寺
十二丁

十四番 同國
三井寺



十七日 人回六波羅

あつとつこのはき

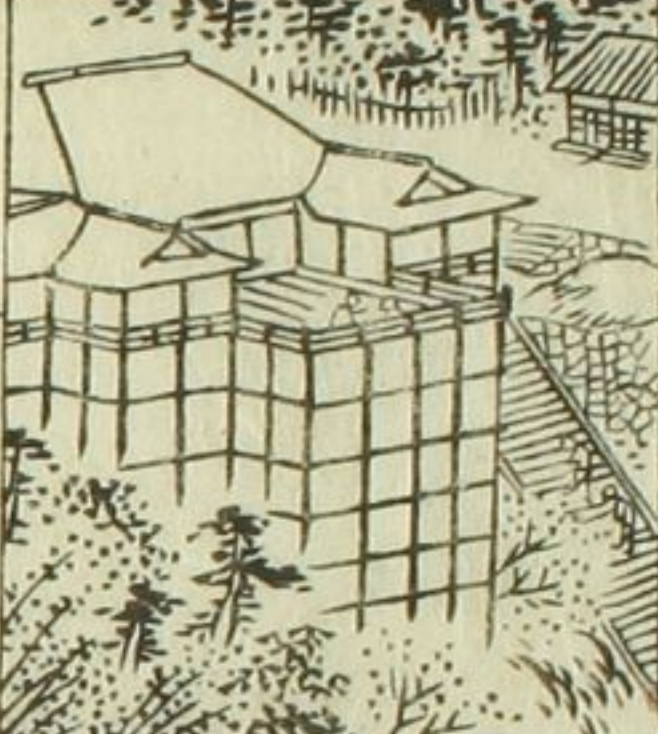
よもあどさろろろろ

まあるろなれば

重くとも五つの罪のあふまはと六五逆罪とて人間小重の罪五つ
あふまはと殺し二八親を殺しそのあふまはと殺し二八伴信と殺し
五つと僧と殺しあふまはと殺しそのあふまはと殺し二八伴信と殺し
獄のあふまはと殺しあふまはと殺し二八伴信と殺しそのあふまはと殺し
見の角あて五つの罪のあふまはと殺し二八伴信と殺しそのあふまはと殺し

十六番京

清水寺



本尊千手観音

此寺は八幡基延法
親王坂上田村守
信ありて松平通西
へまづりむむ寺

十七番京

六波羅宮寺

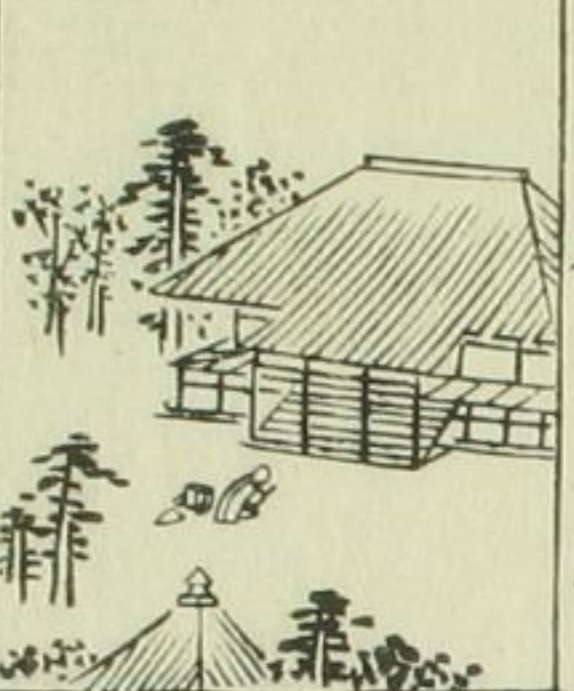
二十一人山城守

乃成もとて中波ぢふじふ

あめれもようこ糸より

ももゆづら

此寺は中波ぢふじふの
紋の表々之の降ふ中波ぢふじふの
手前やとてこの糸ハ糸物の降ふ中波ぢふじふ
送るをゆり向ふ中波ぢふじふの糸ハ糸物の降ふ中波ぢふじふ
れは中波ぢふじふの糸ハ糸物の降ふ中波ぢふじふ
送るの糸ハ糸物の降ふ中波ぢふじふ



本尊十一面観音

此寺は十一面

并山堂也上

此寺の山門は西

久々入道は東通

とれより西へ

を四丁より西

六角寺

十八番京

六角堂

二十一番丹波元種寺

かるとにむまれあふ

あふらやとあふり

十とあつ

此寺は丹波元種寺の
かるとにむまれあふの
あふらやとあふりの
十とあつ

○赤さのハワヅウ
ワヅウのハワヅウ
ハワヅウのハワヅウ
ハワヅウのハワヅウ
ハワヅウのハワヅウ

○井の内村とまづて
いづれもたをたを
いづれもたをたを
いづれもたをたを
いづれもたをたを

○まゆりつはちあま
まゆりつはちあま
まゆりつはちあま
まゆりつはちあま
まゆりつはちあま

○まゆりつはちあま
まゆりつはちあま
まゆりつはちあま
まゆりつはちあま
まゆりつはちあま

二十番回中守

のまをささげたる
てなりつひてま
乃られよめ

冊をの過里をすだて申心
る心むを申心
寺入るハ後世を
いふく夏後世を
まゆりつはちあま

二十番橋磨法

あられや何やのみさか
あなぐふあにをうあ
あにまよる

あられ
経小並門
いふく夏後世を
まゆりつはちあま



二十番山城國
善峯寺

惣持寺



卒塔婆の子の親言
變化は童子作
多系なる唐の建立

一リ
一リ
一リ

二十三番同國
勝尾寺

ちよる千ふくろ丸

二十八番丹波成相寺

あまのついでちやん
天の橋立八日午三系の一ツて
景をよみ
あまのついでちやん
天の橋立八日午三系の一ツて
景をよみ
あまのついでちやん
天の橋立八日午三系の一ツて
景をよみ

あまのついでちやん
天の橋立八日午三系の一ツて
景をよみ
あまのついでちやん
天の橋立八日午三系の一ツて
景をよみ
あまのついでちやん
天の橋立八日午三系の一ツて
景をよみ

二十九番美作松尾寺

あまのついでちやん
天の橋立八日午三系の一ツて
景をよみ
あまのついでちやん
天の橋立八日午三系の一ツて
景をよみ
あまのついでちやん
天の橋立八日午三系の一ツて
景をよみ

比立ぬ親作の仲言
築あ上人昇基



中ふちのハ三リ十二丁
うらとちよるまふら
三十三丁
三十五丁
四十丁
五十丁
五十丁
十丁

せうの村よりすむるとか

二十四番同國

中山寺



本堂より千の記立
法華寺より作再建立
聖徳太子作再建立

一
五十丁
二十五番播磨國
清水寺

三十番通に作生海

つるまひとたこゆふうぶ
ちぐははふひにたうを
はじららして

うぶまの海は...
月や日の波回...
舟をたてて...
舟をたてて...
舟をたてて...

三十一番同七令下

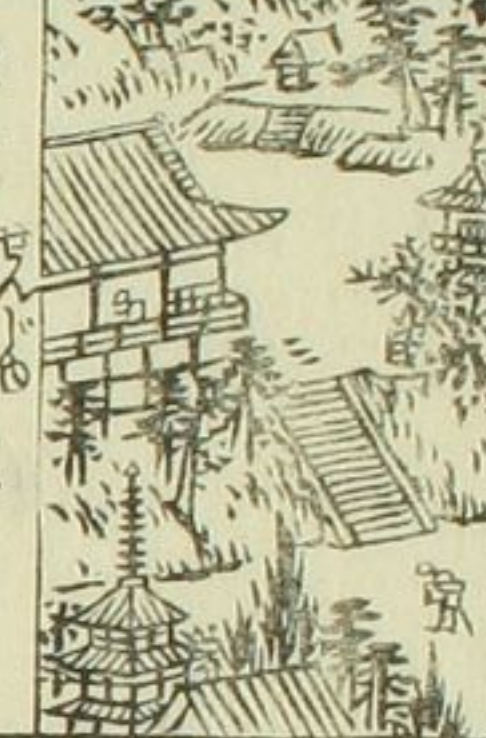
やちとせやかめだふたがま
いりちでらとこぶあゆこれ
かざらあらん

柳八十年と経...
寺ありて...
乃かざらあらん...
乃かざらあらん...



一
五十丁
二十五番播磨國
清水寺
法華寺より七十五丁
二
五丁
二
五丁

二十六番同國
法花山



手寫寺ハハリ
ありけさんより

二リ半 石のやね
三三三 びわぢね
二リ 志すま

二十七番同國

三十二番同親事寺

あうさうとみらびきたまへ
うんおんどうふたふより
もろぶらゆい哉

あうその親世書とりて...
いし極楽浄土へ...
ふふと...
三十二番の此親事...
極楽へ...

書寫山



本寺の如意輪親事
安法行者作
并基性室上人

丹後成おまゝ二十八リ
まよーやより

一 大しや
二 大のせう
三 びさき
四 ヤウ
五 あハガ
六 あハチ
七 まゆ

三十三番丹波谷

いさでいおやとたの
おひづるをぬぎてなむ
みねたふら

おひづる...
及摺ふ親と我身と...
三幅...
二親とも...
これ...
のち...

本寺馬頭観音

威光上人作
多洞院の所建立

竹生一、八、十九リキ

三三三三三三三三三

三三三三三三三三三

三三三三三三三三三

三三三三三三三三三

三三三三三三三三三

三三三三三三三三三

三三三三三三三三三

三三三三三三三三三

三三三三三三三三三



三十番通江國
竹生嶋

同谷汲
日か〜とすえんをるか
おのなよむじぶらげせハ
とんをき〜らぬ

よきうらさうせうかごう 世の中ハ先少不定おて充らるるをばらるるが珍と申す
られぬを君とてゆきまらうかうと申す
風ハ時々きまらぬ何時となく吹くるるを君と申す
まじきふあ〜びされぬい〜を西に吹れ〜た〜い〜ぬ
かくとも君らうちより銀世も善き信を〜とかり



法華の寺子に観音
の基がまら作并基
ふみみのりうつ物より
をうらみんよりして

三十一番同國
長命寺



右の寺の観音
法華大原作
聖徳太子御建立

観世音永夜

熊野妙法山

くべのら〜のうま〜びと
おのるよ志で乃中ま〜らで
おとひま〜せん

熊野の山は、神の宮なり。西に吹れる風も、東に吹れる風も、
おのるよ志で乃中ま〜らで
おとひま〜せん

くさんおち一りま
まごねぬあり

三十二番同國

観音寺



たふぐと十九り
くさんまより

一りま ちちり
二り八丁 ちちりや
一りま ちちりや
一りま ちちりや

信濃善光寺

みまのほろろハ志あり

ぜんくさじら列し入

くさじら志中うと入

身ハ志あり信濃の善光寺とハ志あり
ねどもむらうらうら信濃の善光寺入通ひ阿彌陀如来と
お祈りするなりまは世ハ信濃の善光寺入通ひ阿彌陀如来と
けの下のくさじら志中うと入
信をよきて極楽入身ハ志あり他志あり信をよきて入たかり

山城柳谷

みりけやなびくちあふ

たよぐのくいにあひせぬ

くさじらありたり



三十三番美濃國
谷汲寺

觀音經早讀繪抄

同 訓讀圖會

好華堂主人著
松川半山圖画

全一冊

全三冊

世に觀音經の繪書多し... 或は不用のものと載せ
て後小煩... 或は諸書と名を考し... 且解や...
やうに和語... 繪を加へ... 繪を... 是れ... 是れ...
二二三劫の縁多し... 是れ... 淨土宗の... 淨土宗の...

淨土宗回向文繪抄

好華堂主人著
松川半山圖画

全二冊

淨土宗朝の勅の回向文... 淨土宗の... 淨土宗の... 淨土宗の... 淨土宗の...
拜の... 淨土宗の... 淨土宗の... 淨土宗の... 淨土宗の...
をかく... 淨土宗の... 淨土宗の... 淨土宗の... 淨土宗の...

三都... 板元

秋田屋太右衛門

嘉永二己酉年正月

| | | |
|-------|--------|-------|
| 大阪 | 京 | 江戸 |
| 同 安堂寺 | 心齋橋通博勞 | 同 三條寺 |
| 秋田屋 | 河内屋 | 須原屋 |
| 太右衛門 | 茂兵衛 | 善兵衛 |
| | 平右衛門 | 伊八 |
| | | 平兵衛 |
| | | 嘉七 |
| | | 佐兵衛 |
| | | 茂兵衛 |

